

メディア表現ラボ 室長挨拶

メディア表現ラボ室長 植田 麦(政治経済学部)

「基礎マスコミ研究室」から「メディア表現ラボ」へ

メディア表現ラボは、2023 年 4 月にスタートした、新しい組織です。それまでの「基礎マスコミ研究室」を母体としながらも、発展的に改組しました。メディア環境が大きく変化する現代において、学生の皆さんにより幅広い表現力と実践的なスキルを習得するための環境を提供しています。

本ラボの大きな特徴は、学部を問わず入室できる点です。また、従来のマスメディア志望者向けサポートに加え、多様なメディア表現を学べる新しいカリキュラムを用意しており、変化する社会で求められる「表現」の技術を実践的に習得できる環境を整えています。

メディア表現ラボで学ぶこと

メディア表現ラボでは、「適切な形式の文章を書く」「プレゼンテーションを行う」をカリキュラムの骨子としています。これらに加えて、動画技術の習得や自己分析・就活の模擬面接といった講座も用意しています。

適切な形式の文章を書く

たとえば、メディア表現ラボでは室員による自主講演会を企画しています。この講演会では、外部講師を招いて話をしてもらうのですが、そのとき、どのような形で連絡をするべきでしょうか？LINE で友達を誘うようにはいきません。さまざまな状況において最適な文章の形式を判断し、適切な文章を書くための技術を学びます。

本学では、学部ごとにアカデミックライティングの授業が設定されています。それらの講義内容とメディア表現ラボの講座は、相互に補完しあうものです。また、25 年度からは生成 AI の利用についての内容も予定しています。

プレゼンテーションを行う

大学生の多くは、全く知らないひとの前で話をしたことはありません。にもかかわらず、インターンシップや就活では突然、見ず知らずのひとの前で、自分について語ることを求められます。このカリキュラムでは、プレゼンテーション技術の基本を学び、実践を通して人前で話すことに習熟します。

話す技術を向上させる最も効果的な方法は「場数を踏むこと」です。これは、大学教員として年に数十回、10年以上にわたり授業や講演をしてきた経験から得た確かな知見です。いきなり失敗が許されない本番の場に臨むのではなく、まず技術を学び、安全な環境で練習を重ねることが成長への近道です。就職活動や社会人になる前に、経験を積んでみませんか？

自分の「やりたいこと」を掘り下げる

メディア表現ラボはもともとマスコミ就職を希望する学生のための組織でしたが、現在はより広い視野をもち、さまざまな進路を考える学生たちに開かれています。また、入室後に「本当に自分はマスコミ就職をしたいのだろうか？」と自らの志望を見つめ直す学生も少なくありません。

メディア表現ラボは一学年約 50 人、全学年合わせると 200 人規模という大所帯です。学内を見渡しても、これほどの規模を持つクラブ・サークルは数少ないでしょう。この多様な集団の中には、必ずあなたと同じ志を持つ仲間や、似た悩みを抱える学生がいるはずです。

そのため、メディア表現ラボでは、ラボ内での自主活動を積極的に推奨しています。正規の授業では扱われない内容についての自主勉強会の開催や、学外コンテストへの参加など、あなたのアイデア次第で様々な活動が可能です。

講座で学ぶ基礎的なスキルだけでなく、こうした自主活動を通じて「自分が本当にやりたいこと」を深く掘り下げていくことができます。そして、その目標が明確になったら、次は「やりたいことを実現するために、何が必要なのか？」を考えるステージへと進みます。与えられた知識やスキルを真に自分のものにするためには、あなた自身の内側からの原動力が不可欠です。メディア表現ラボは、そんなあなたの「スイッチ」を押すきっかけを提供します。

メディア表現ラボに入室するには？

メディア表現ラボでは、春学期に入室者の募集をしています。志願者には、志願理由とテーマに沿った作文をしてもらっています。「入室するのに、文章を書くななんて面倒……」と思われるかもしれませんが、まずは最初の「表現」をしてください。

入室についての詳細は Oh-o!Meiji の告知をご確認ください。